



# 2009年3月期 決算説明会

## 大平洋金属株式会社

2009年5月22日

ホームページURL : <http://www.pacific-metals.co.jp>

お問い合わせ先 : 総務部 (IR担当)

TEL : 03-3201-6681

# 目 次

## I 09.3期決算実績

◆09.3期 決算実績	
1. 概要	3
2. ニッケル事業	4
3. 国別販売実績(08.3実績対09.3実績)	5
4. 連結経常損益の分析(08.3実績対09.3実績)	6

## II 10.3期決算見通し(10.3期実行予算計画)

◆10.3期 決算見通し	
1. 概要	8
2. ニッケル事業通期見通し	9
3. 国別販売見通し〔09.3実績対10.3予想(新)〕	10
4. 連結経常損益の分析〔09.3実績対10.3予想(新)〕	11

## III ニッケル需給について

◆今後のニッケル需給の見通しについて	
1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移	13
2. 世界のステンレス生産とニッケル需給	14

## IV 経営課題への取組み

◆成長のシナリオ	16
◆投資内容	17
◆安定した鉱石調達への取組み	18

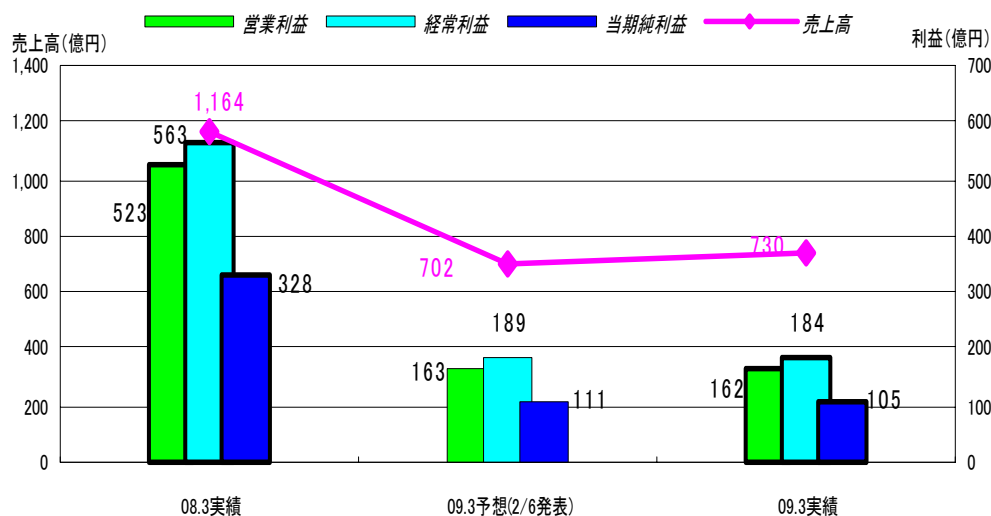


# I 09.3期決算実績

# ◆09.3期 決算実績

## 1.概要

～営業利益率は22.2%及び経常利益率は25.2%～



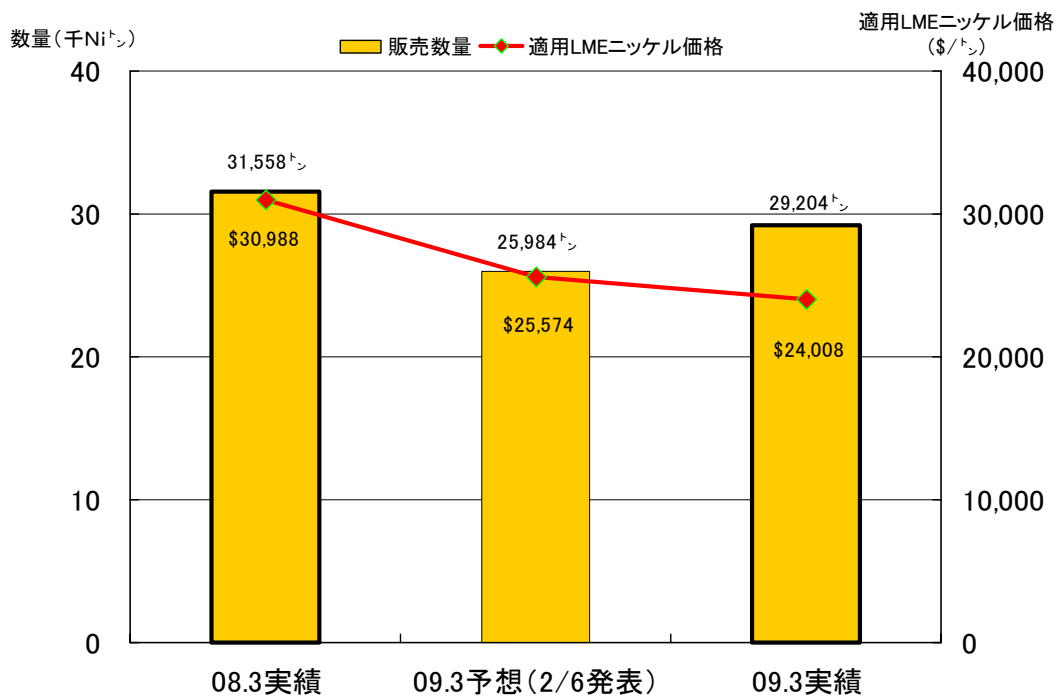
- ◇ ニッケル事業  
ステンレス業界は国内外ともに更なる減産体制となる。年明け以降の中国政府の景気刺激策により、当社の販売数量は前期並みに回復するが、フェロニッケルの販売価格の下降で減益となった。
- ◇ その他の事業  
電力卸売り事業等が順調であったものの廃棄物リサイクル事業は、受注数量不振により損失となった。

金額単位: 百万円	08.3実績		09.3予想(2/6発表)		09.3実績			対前期比 (%)	対2/6発表 予想比(%)
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	構成比率		
売上高	116,420	—	70,206	—	72,976	—	100.0	△37.3	3.9
ニッケル事業	113,648	—	—	—	71,154	—	97.5	△37.4	—
その他の事業	2,932	—	—	—	1,998	—	2.7	△31.9	—
連結に伴う調整	△160	—	—	—	△176	—	0.2	—	—
営業利益	52,251	44.9	16,260	23.2	16,169	22.2	100.0	△69.1	△0.6
ニッケル事業	52,468	46.2	—	—	16,262	22.9	100.6	△69.0	—
その他の事業	△239	△8.2	—	—	△108	△5.5	△0.7	△54.5	—
連結に伴う調整	22	—	—	—	15	—	0.1	—	—
経常利益	56,315	48.4	18,912	26.9	18,388	25.2	—	△67.3	△2.8
当期純利益	32,804	28.2	11,082	15.8	10,532	14.4	—	△67.9	△5.0
(設備投資額)	12,046	—	—	—	11,321	—	—	—	—
(減価償却費)	2,676	—	—	—	3,238	—	—	—	—

# ◆09.3期 決算実績

## 2.ニッケル事業

～LMEニッケル価格は大幅下降、販売数量は前期と比較しほぼ横ばい～



### TOPICS

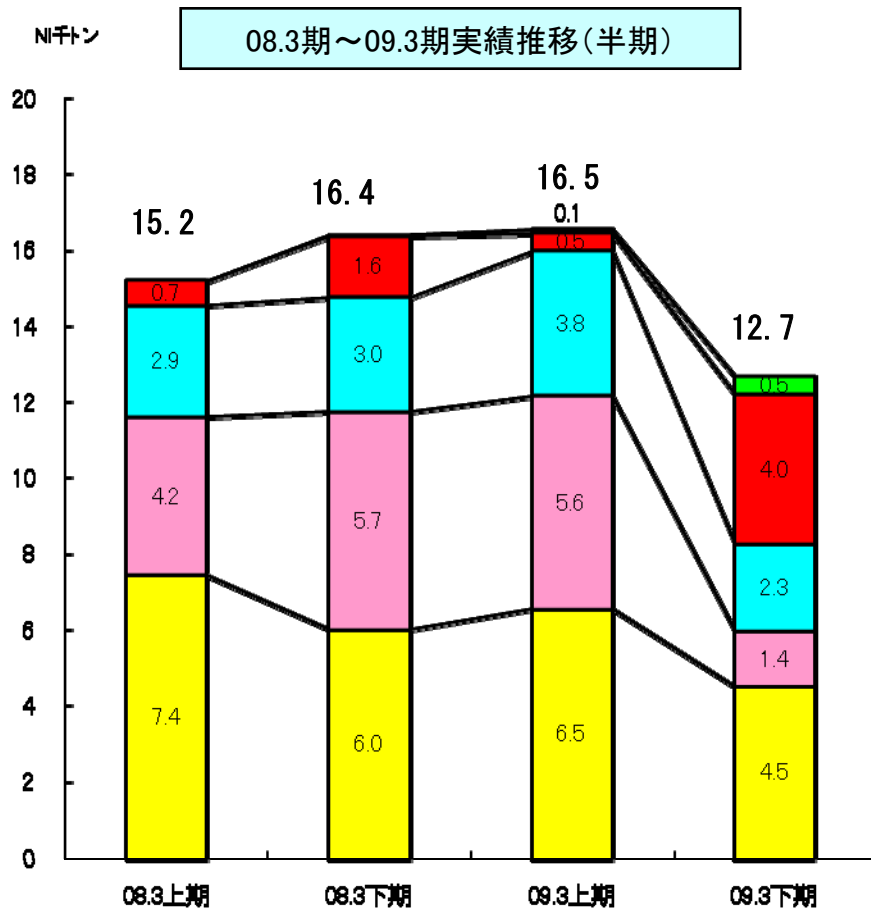
- ① 販売数量  
フェロニッケル販売数量は、第3四半期の大幅な落ち込みから、第4四半期の中国向け増加により、29,204トンとなり、前期と比較しほぼ横ばい。
- ② 適用LMEニッケル価格  
世界同時不況でニッケル価格下降、トン当たり24,008ドル、ポンド当たりでは10.89ドルで、前期比22.5%安。
- ③ 適用為替  
102.44 ¥/\$で前期比12.47 ¥/\$円高。

	08.3実績	09.3予想 (2/6発表)	09.3実績	対前期比(%)	対2/6発表 予想比(%)
販売数量(Niトン)	31,558	25,984	29,204	△7.5	12.4
適用LME(\$/トン)	30,988	25,574	24,008	△22.5	△6.1
【適用LME(\$/lb)】	【14.06】	【11.60】	【10.89】	—	—
適用為替(¥/\$)	114.91	104.47	102.44	—	—

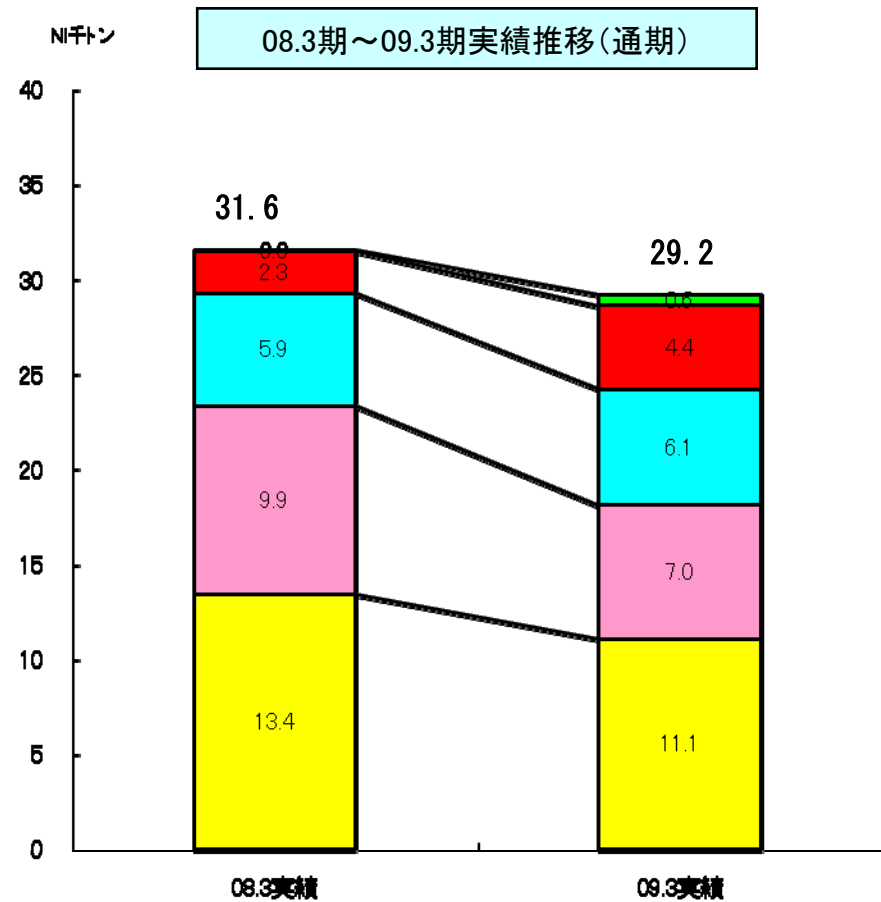
◆09.3期 決算実績

3. 国別販売実績 (08.3実績対09.3実績)

当社のフェロニッケル販売数量 (国別) 実績



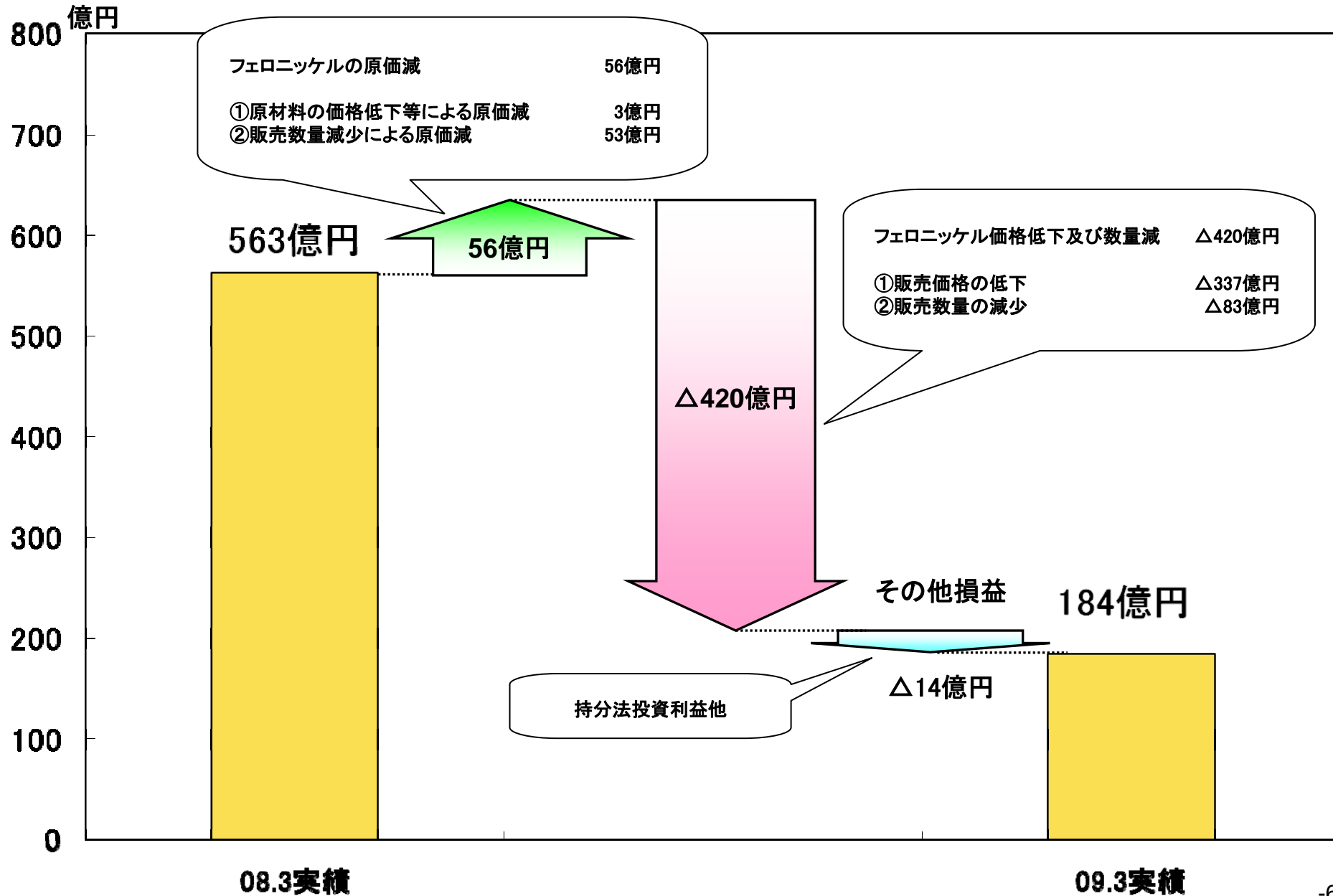
国内 韓国 台湾 中国 インド




国内 韓国 台湾 中国 インド

◆09.3期 決算実績

4. 連結経常損益の分析 (08.3実績対09.3実績)





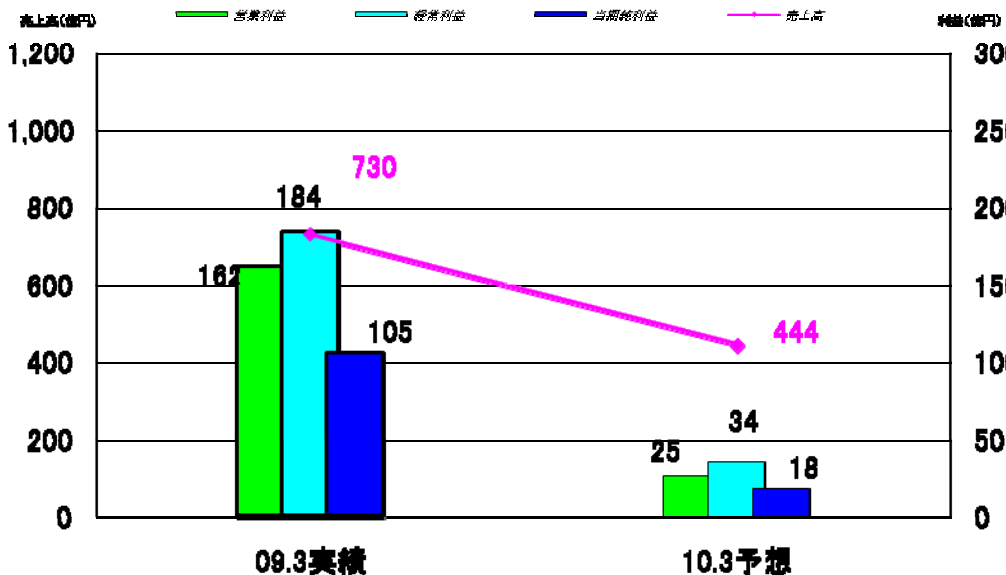
## Ⅱ 10.3期決算見通し (10.3期実行予算計画)



# ◆10.3期 決算見通し(10.3期実行予算計画)

## 1.概要

～厳しい経営環境の中、販路拡大、投資抑制で収益を確保～



◇ニッケル事業  
09.3期実績と比べ、販売数量は増加を見込むが、LMEニッケル価格低下、為替の円高により、減収減益の見通し。

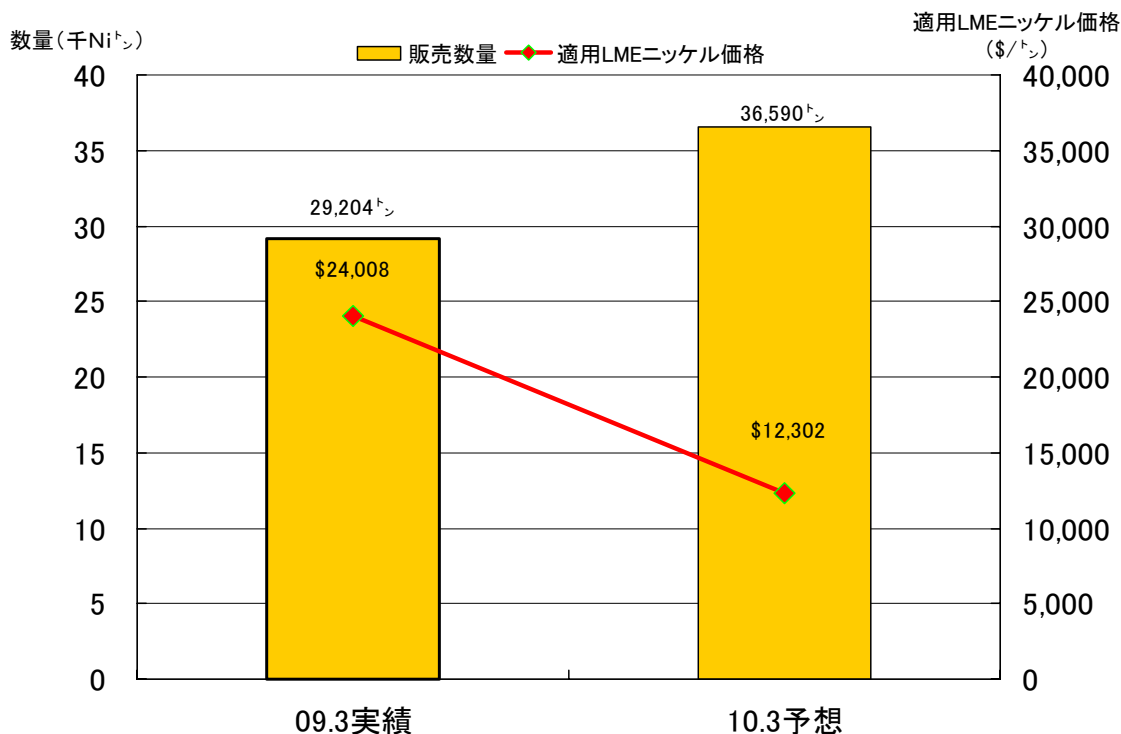
◇その他の事業  
電力卸売事業等は順調に推移、廃棄物リサイクル事業は安定操業の確立を目指す。

金額単位:百万円	09.3実績		10.3予想			対前期比 (%)
	金額	利益率	金額	利益率	構成比率	
売上高	72,976	—	44,356	—	100.0	△39.2
ニッケル事業	71,154	—	42,629	—	96.1	△40.1
その他の事業	1,998	—	1,905	—	4.3	△4.7
連結に伴う調整	△176	—	△178	—	△0.4	—
営業利益	16,169	22.2	2,531	5.7	100.0	△84.4
ニッケル事業	16,262	22.9	2,454	5.8	96.9	△84.9
その他の事業	△109	△5.5	91	4.8	3.6	△183.8
連結に伴う調整	15	—	△14	—	△0.5	—
経常利益	18,388	25.2	3,444	7.8	—	△81.3
当期純利益	10,532	14.4	1,777	4.0	—	△83.1
(設備投資額)	11,321	—	9,733	—	—	—
(減価償却費)	3,238	—	4,206	—	—	—

# ◆10.3期 決算見通し

## 2. ニッケル事業通期見通し

～中国向け販売数量の増加を見込む～



### TOPICS

- ①販売数量  
新規販売先の開拓等により、販売量前期比7,386トン増を見込む。
- ②適用LMEニッケル価格  
適用LMEニッケル価格は、12,302\$/トン(5.58\$/lb)で前期比48.8%下方見込み。
- ③適用為替  
94.34¥/\$で前期比8.1¥/\$と大幅な円高を予想。

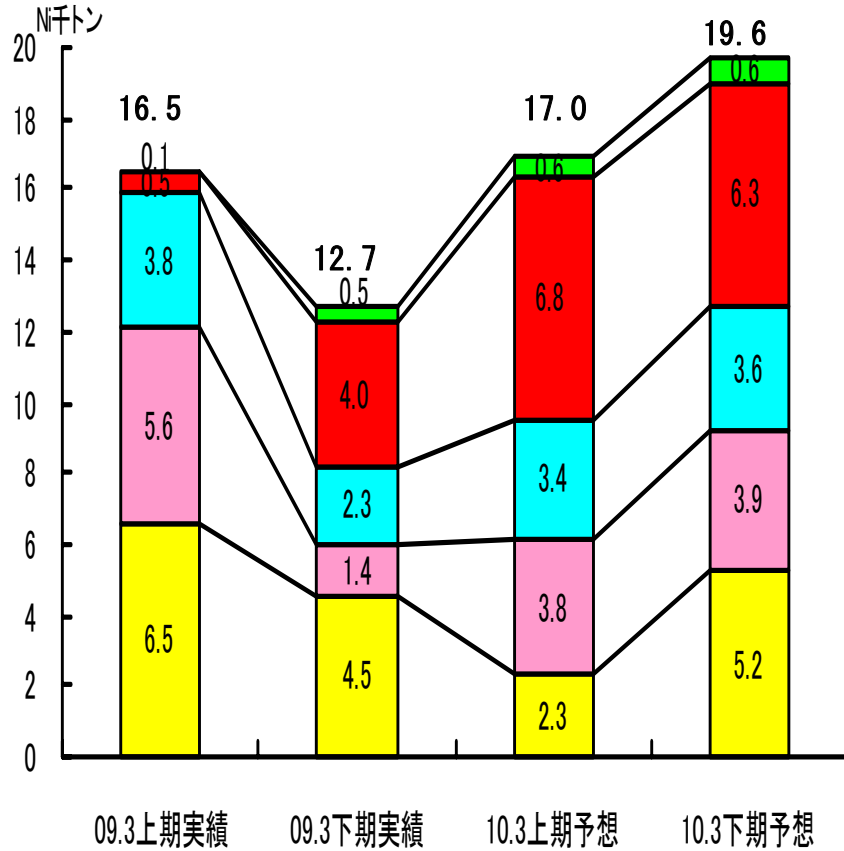
	09.3実績			10.3予想			対前期比(%)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
販売数量(Niトン)	16,546	12,658	29,204	16,950	19,640	36,590	25.3
適用LME(\$/トン)	28,572	18,034	24,008	11,398	13,051	12,302	△48.8
【適用LME(\$/lb)】	【12.96】	【8.18】	【10.89】	【5.17】	【5.92】	【5.58】	—
適用為替(¥/\$)	105.96	98.45	102.44	94.12	94.53	94.34	—

◆10.3期 決算見通し

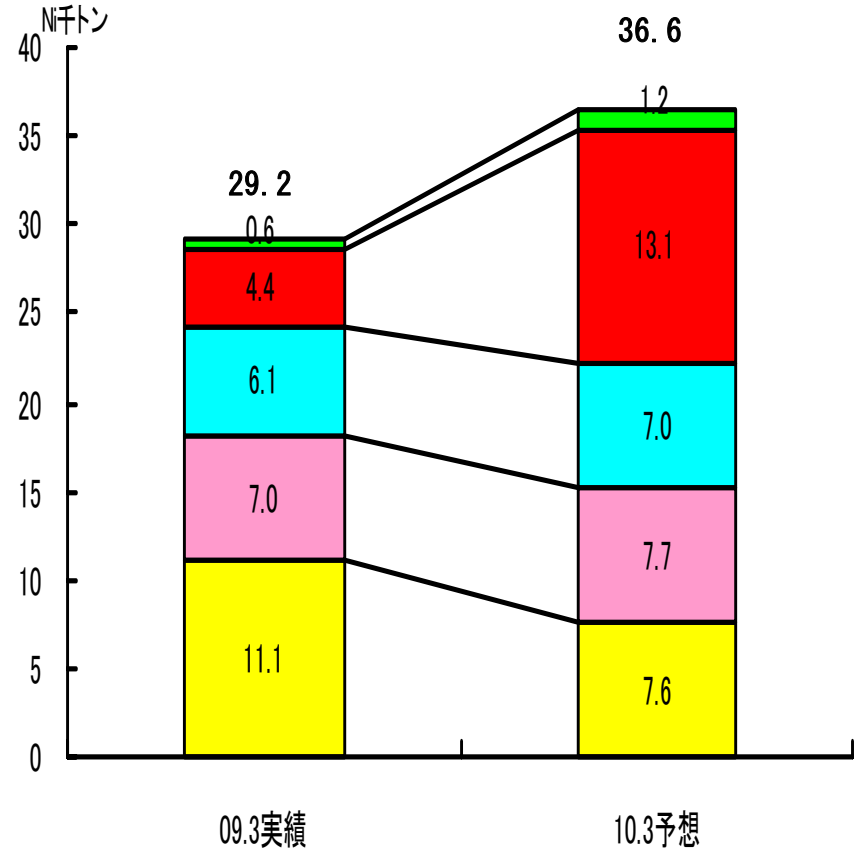
3. 国別販売見通し〔09.3実績対10.3予想(新)〕

当社のフェロニッケル販売数量（国別）実績

09.3期実績～10.3期予想推移(半期)



09.3期実績～10.3期予想推移(通期)

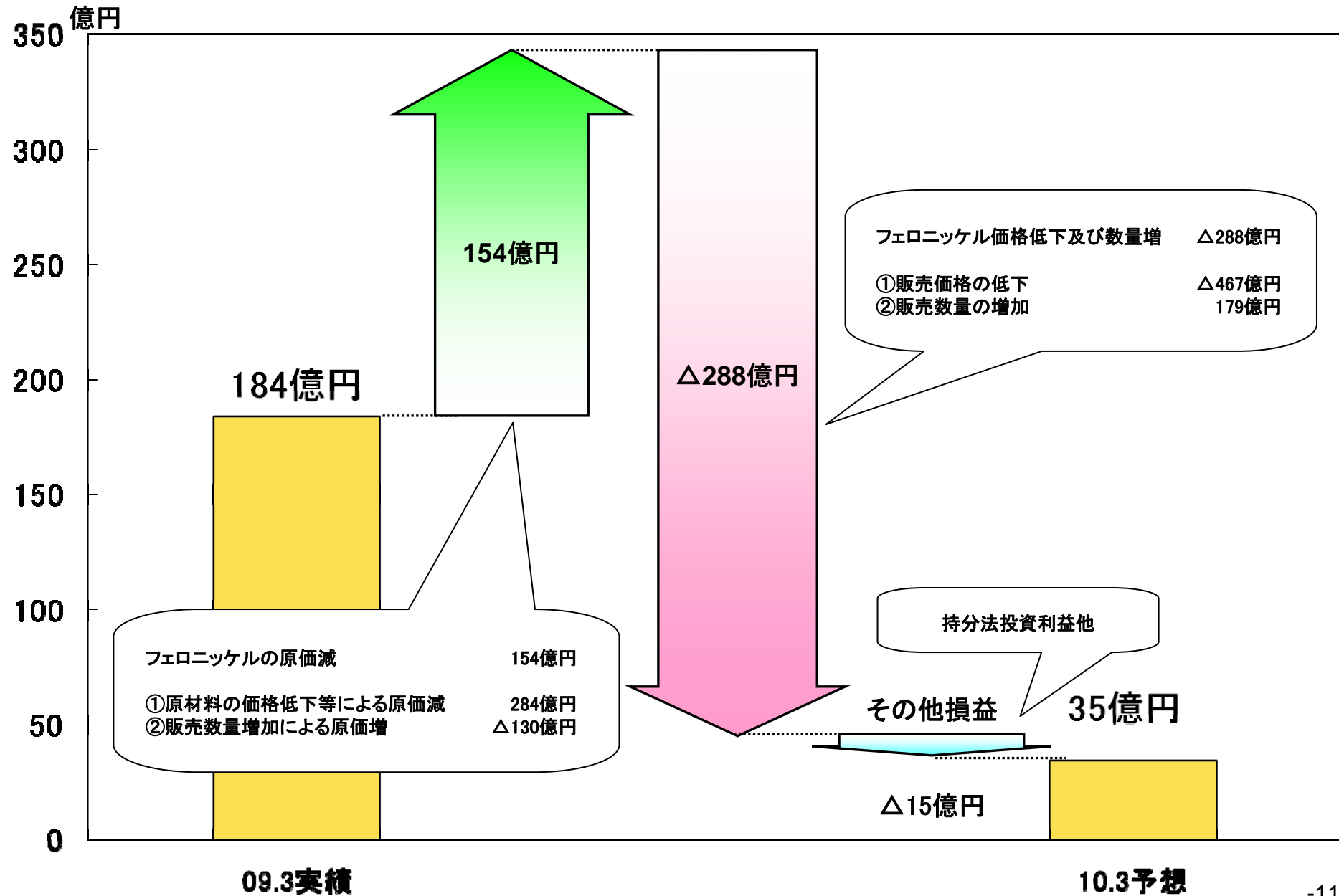


■国内 ■韓国 ■台湾 ■中国 ■インド

■国内 ■韓国 ■台湾 ■中国 ■インド

◆10.3期 決算見通し

4. 連結経常損益の分析〔09.3実績対10.3予想(新)〕

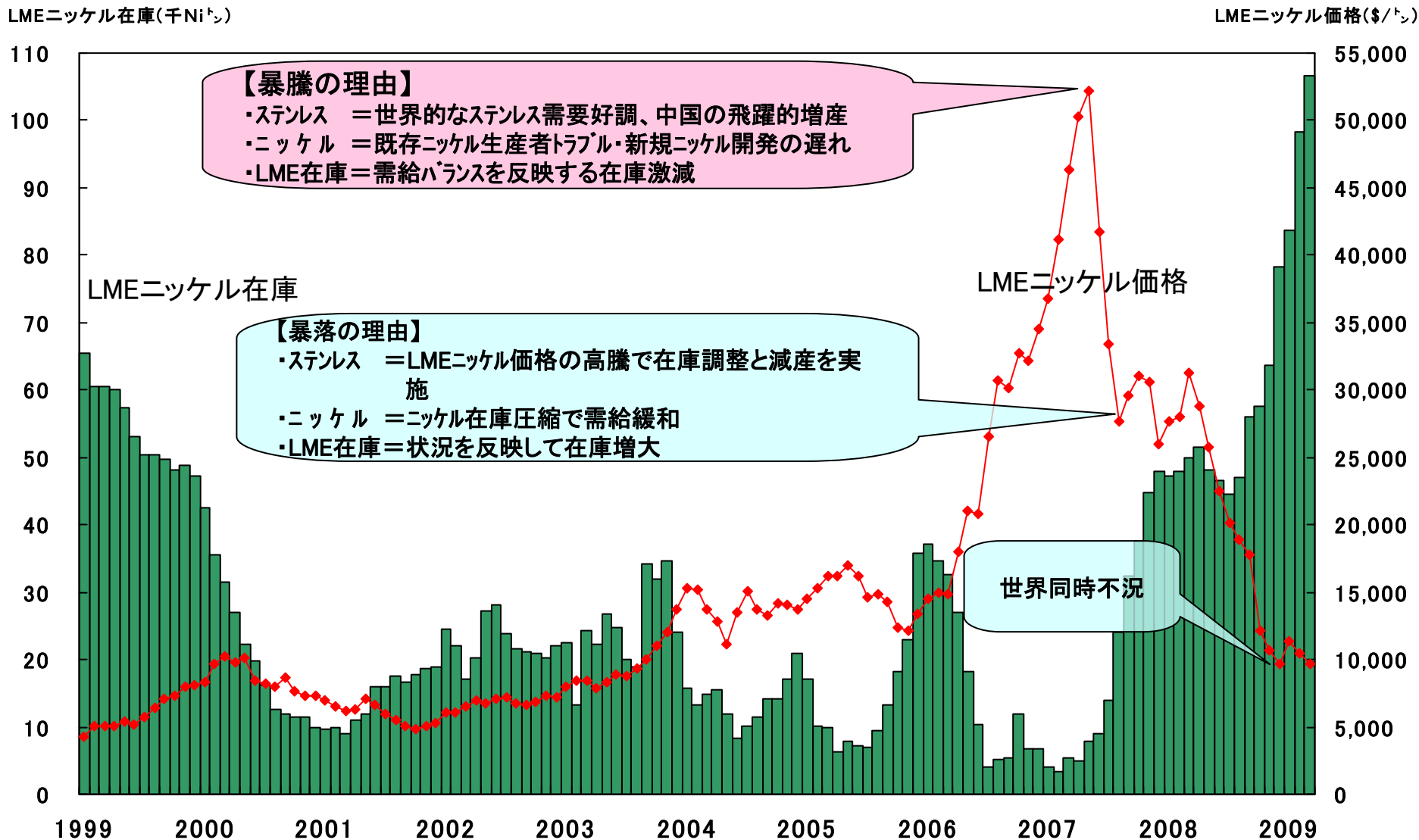


A light blue world map is centered in the background of the slide. The map shows the outlines of continents and countries in a darker shade of blue against a lighter blue background.

## Ⅲ ニッケル需給について

# ◆今後のニッケル需給の見通しについて

## 1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移(1999年～2009年)

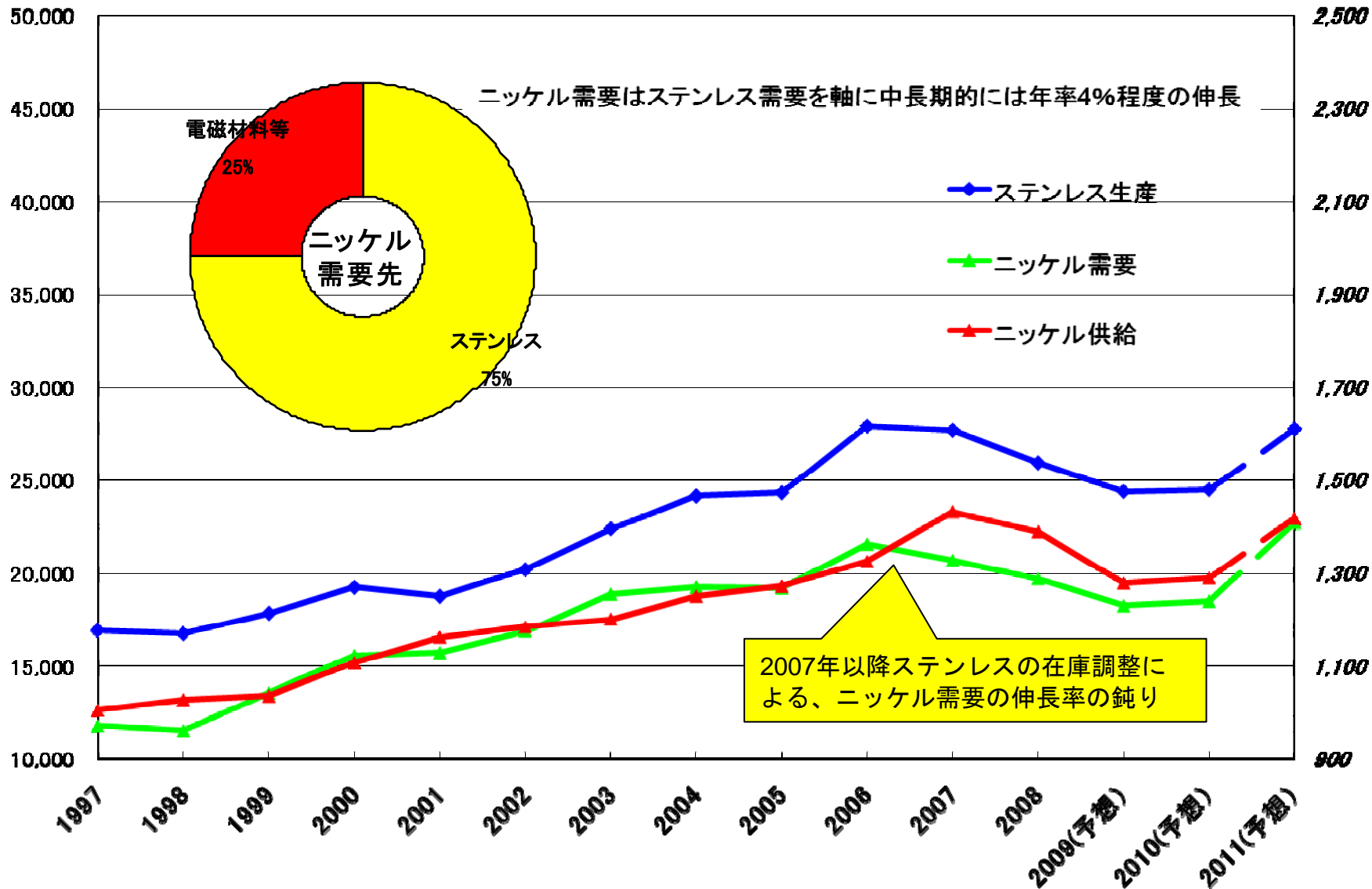


# ◆今後のニッケル需給の見通しについて

## 2. 世界のステンレス生産とニッケル需給

ステンレス生産(千ト)

ニッケル需給(千NIト)





# IV 経営課題への取組み



# ◆成長のシナリオ

マクロ環境

世界的な金融不安と実体経済の悪化により  
ニッケル市況は大幅な落ち込み

中長期的にみればニッケル需要は回復・伸長

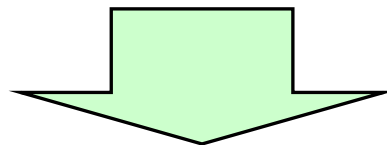
当社の強み

鉱山との協力的なコネクション  
安定した鉱石調達

製錬技術と  
低コスト生産体制

伸長するアジアの好立地  
有利な販売環境

参入障壁の高い業界／競合他社よりも有利なポジション



目指す姿

東アジアにおけるフェロニッケルNo.1企業堅持

成長戦略

①安定した鉱石調達への取組み  
(新規鉱山開発の推進)  
(湿式製錬技術研究開発)

②生産基盤整備増強のための  
設備投資

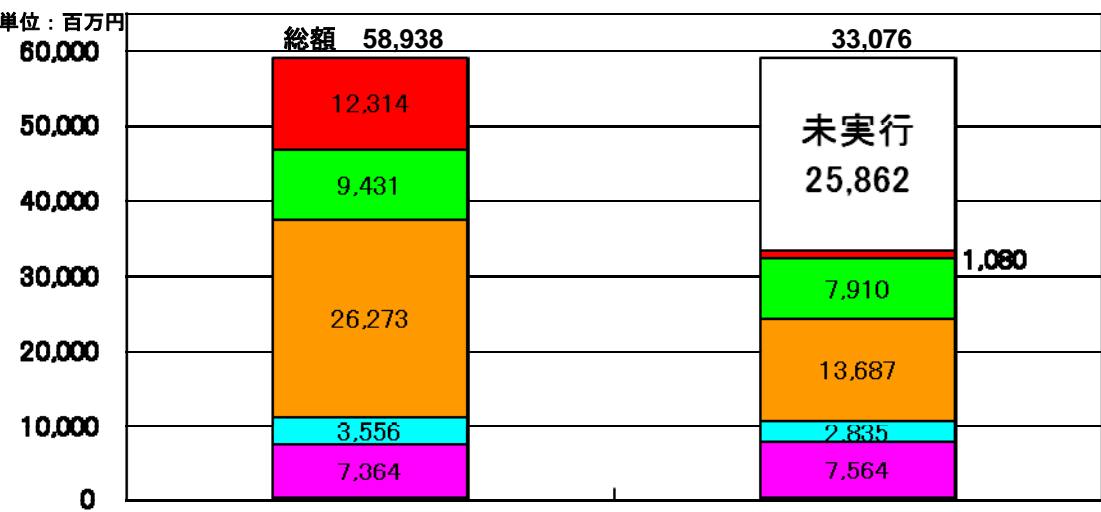
③安定した販売体制と  
販路拡大

# ◆投資内容

～経営環境の変化に伴う投資圧縮～

## PAMCO22（4カ年計画）進捗状況

■増産に係る ■環境対策 ■設備維持更新 ■研究等 ■鉱山開発 ■未実行

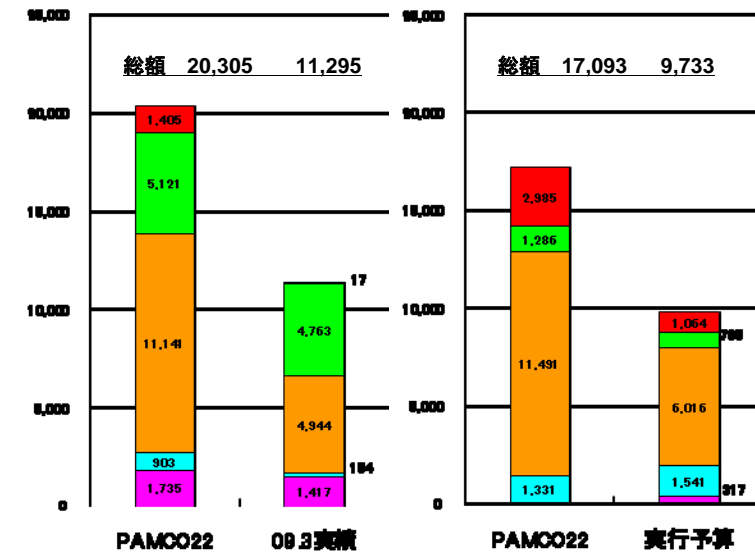


## 対09.3期実績

## 対10.3期予算

単位: 百万円

単位: 百万円



## PAMCO22 (4カ年)

## 08.3期～10.3期 (3カ年)

	PAMCO22 (4カ年) と 3カ年投資の未実行比較			計画 対 09.3期実績			PAMCO22対実行予算		
	PAMCO22 (4カ年)	08.3期～10.3期 (3カ年)	比較	PAMCO22 (09.3期)	実績	比較	PAMCO22 (10.3期)	予算	比較
増産に係る	7,364	7,564	△200	1,735	1,417	318		317	△317
環境対策	3,556	2,835	△721	903	154	749	1,331	1,541	210
設備維持更新	26,273	13,687	△12,586	11,141	4,944	△6,197	11,491	6,016	△5,475
研究等	9,431	7,910	△1,521	5,121	4,763	358	1,286	795	△491
鉱山開発	12,314	1,080	△11,234	1,405	17	△1,388	2,985	1,064	△1,921
<b>計</b>	<b>58,938</b>	<b>33,076</b>	<b>△25,862</b>	<b>20,305</b>	<b>11,295</b>	<b>△9,010</b>	<b>17,093</b>	<b>9,733</b>	<b>△7,360</b>

### ★TOPICS

◎ 3カ年進捗330億円(工事ベース)の投資を見込む

◎ 設備維持更新に係る6号炉改修工事について未達工事67億円の投資を先送り

◎ 鉱山投資は複数のシッパーと調査探鉱中

◎ 参考 08.3期投資額 120億円

# ◆安定した鉱石調達への取り組み

## ＜ニッケル鉱石安定調達策＞ ニッケル鉱山開発123億円

- ①長期購入契約締結
- ②鉱山開発及び操業に関する技術協力
- ③鉱山会社への出資

酸化ニッケル鉱山



### ①長期購入契約締結（期間は5年から10年）

＜フィリピン＞	
リオ・チバ・ニッケル社	08年 1月～12年12月（5年間）
タガニート社	01年 1月～10年12月（10年間）
＜インドネシア＞	
アンタム社	07年 6月～14年 5月（7年間）
＜ニューカレドニア＞	
モンタニア社	06年 4月～16年 3月（10年間）

### ②鉱山開発及び操業に関する技術協力

＜フィリピン＞  
リオ・チバ・ニッケル社とは、既に探鉱・開発対象となる新たな鉱区を決定済み。リオ・チバ・ニッケル社およびタガニート社等と共同で進行中。

＜インドネシア＞  
アンタム社が鉱山開発を行い、開発後の安定した鉱山操業のための技術協力を実施。

### ③鉱山会社への出資

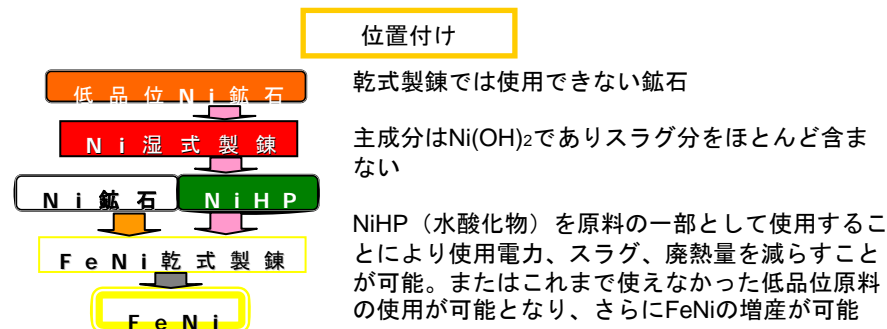
＜フィリピン＞	
リオ・チバ・ニッケル社	36%
タガニート社	33.5%
＜インドネシア＞	
アンタム社	若干の出資
（インドネシア政府65%、その他一般35%）	

## ＜湿式製錬への取り組み＞ 八戸製造所にパイロットプラント建設等88億円

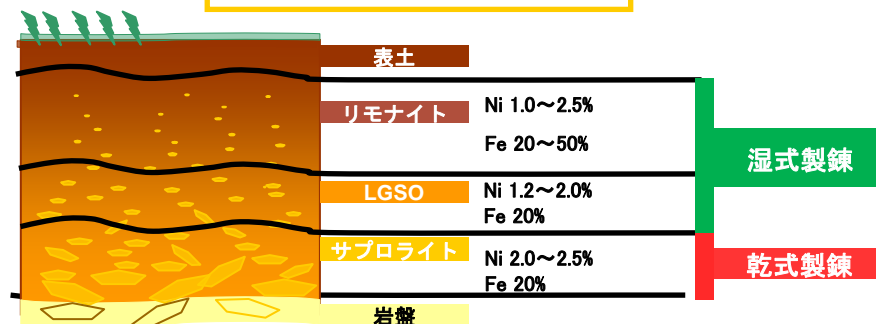
### 低品位鉱石の活用プロジェクトの推進

湿式製錬は化学処理によるニッケルの濃縮・抽出方法。

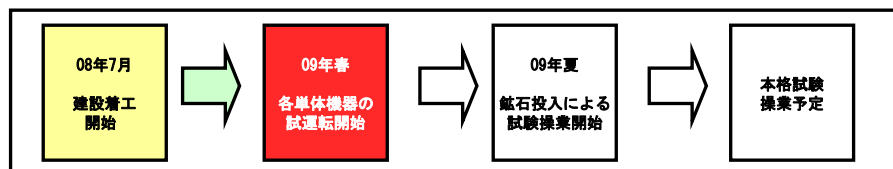
- 現地山元で湿式製錬し、品位を上げた中間産品を八戸で乾式製錬することにより低品位鉱石を活用する。



### 酸化ニッケル鉱石と製錬法



### パイロットプラント進捗状況



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。